

平成29年度 徳島県田園環境検討委員会
環境配慮実績 報告書

徳島県 農山漁村振興課

平成30年3月

農業農村整備事業の環境配慮 平成29年度実績

平成30年3月現在の状況

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等(予定)
43	H22	経営体育成基盤整備事業	坂野2期 (小松島市)	⑤代償	・希少植物(ミズタカモジ・アゼスガ等)は、代替えの生息地へ移植する。 在来水生動物の生息環境への影響を工法の選定などによりできるだけ少なくする。	④軽減/消失 ⑤代償	・希少植物(ミズタカモジ)を代替の生育場所へ移植するとともに、種子を採取し、工事の完了している畦畔に播種した。 ・希少植物(アゼスガ)を一時避難させ、工事完了後に生育環境に適した場所へ移植を行った。 ・堤体上流側法面にブロックマットを実施し、植生空間を創る工事を実施。	・移植箇所において、良好に生育していることを確認。 ・植物が繁茂してきている。
44	H22	ため池等整備事業	敷地池 (吉野川市)	②最小化	在来水生動物の生息環境への影響を工法の選定などによりできるだけ少なくする。	②最小化	・堤体上流側法面にブロックマットを実施し、植生空間を創る工事を実施。	・植物が繁茂してきている。
48	H25	ため池等整備事業	相名池 (阿南市)	②最小化	・堤体内側の張りブロックについて、多孔質のコンクリート製品を堤体の一部に使用する。	②最小化	・堤体内側法面にブロックマットを実施し、植生空間を創る工事を実施。	工事実施中
				④軽減/消失	・ため池の水を抜く際、徐々に水を排出し、ため池内部に溜水域を確保し、在来の水生動物が避難できるようにする。	④軽減/消失	・ため池の水を抜く際に、徐々に水を排出し、在来の水生動物が避難できるようにした。	
				④軽減/消失	・工事により影響のある水田の表土(ミズマツバの埋土種子を含む)を影響の無いところに仮置きし、工事後に戻す。	④軽減/消失	・表土の仮置きを行った。堤体工事後に元の場所に戻す。	工事実施中
50	H26	ため池等整備事業	源太池 (阿波市)	②最小化	・堤体内側の張りブロックについて、多孔質のコンクリート製品を堤体の一部に使用する。	②最小化	・堤体上流側法面にブロックマットを実施し、植生空間を創る工事を実施。	工事実施中
				④軽減/消失	・希少種(コカモメヅル)の個体及び埋土種子を含む表土を、影響の無いところに仮置きし、工事後に戻す。また、事前に種子を採取し、工事後に播く。	④軽減/消失	・コカモメヅルの個体保護を行った。	・避難先において、良好に生育している。
				④軽減/消失	・工事により影響のある水田の表土を影響の無いところに仮置きし、工事後に戻す。	④軽減/消失	・水田の表土は、工事に影響のないところへ仮置きし、工事後に戻す予定。	
				④軽減/消失	・工事に関わる作業ヤードは必要最小限度とする。池も干上げの際、オオクチバス(特定外来種)を駆逐する。	④軽減/消失	・工事に関わる作業ヤードは、必要最小限度としている。 ・工事に先立つ干上げの際に、駆逐すべき外来種は発見されず、在来種は同水系の近傍ため池に移動し放流した。	
51	H27	農村地域防災減災事業	那賀川・小松島 (小松島市)	④軽減/消失	・工事期間中、希少植物(クロモ、クロカワズスゲ)に影響を受けやすい場所へ避難させ、工事後、元の場所に戻す。	④軽減/消失	・工事期間中、希少植物(クロモ)に影響を受けやすい場所へ避難させた。	工事実施中

事業名	経営体育成基盤整備事業	地区名	坂野2期	市町村	小松島市
事業所名	東部農林水産局<徳島>	課名	農村整備第一	採択年度	H22

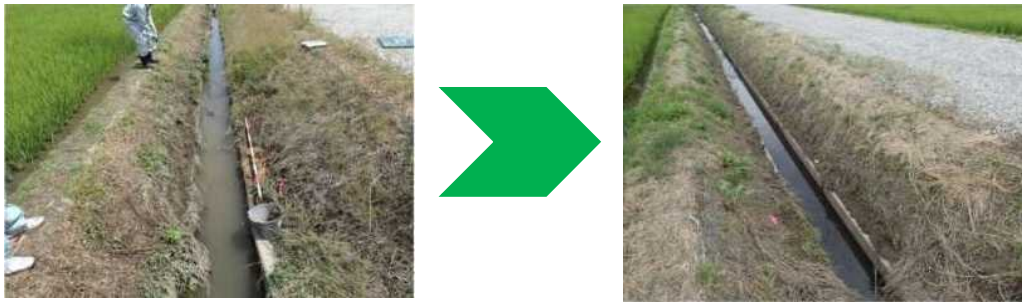
環境配慮の内容：④軽減／消失 ⑤代償

希少植物（アゼスゲ）の移植及びモニタリング調査を行った。

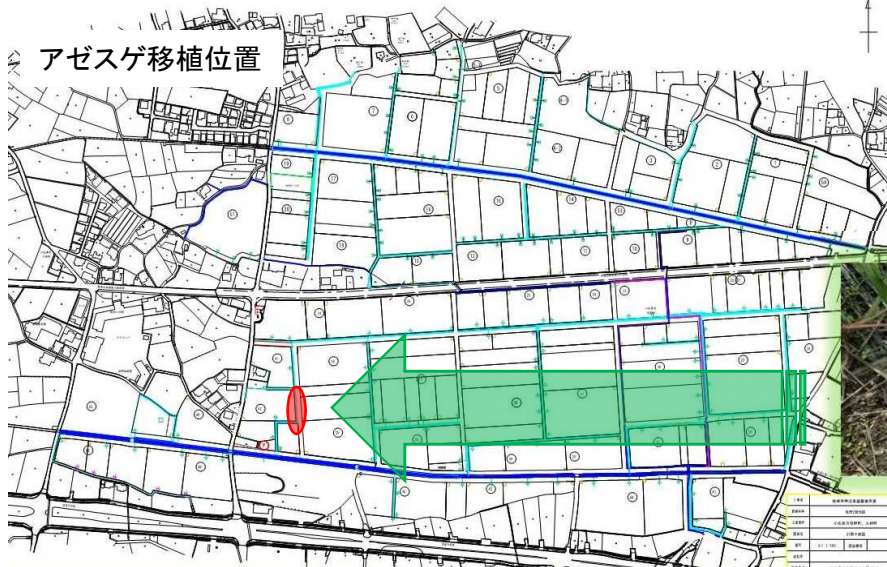
④軽減／消失

ほ場整備工事着手前（平成27年12月）に一時避難させていた希少植物（アゼスゲ）を専門家の指導のもと、生育環境に適した場所へ移植した。

①アゼスゲの移植作業及び生育状況確認（平成29年6月23日、平成29年6月26日に実施）



②アゼスゲの生息状況確認（平成29年7月20日、平成29年9月6日などに実施）



事業名	ため池等整備事業	地区名	敷地池	市町村	吉野川市
事業所名	東部農林水産局<吉野川>	課名	農村整備	採択年度	H22

環境配慮の内容：②最小化
植生空間を創る工事を実施した。

②最小化

堤体上流側の法面保護にブロックマットを採用し、ブロックの開口部から植物が再生することにより植生空間を創る工事を実施した。

○ため池法面の植物の繁茂状況(平成29年10月)



事業名	ため池等整備事業	地区名	相名池	市町村	阿南市
事業所名	南部総合県民局〈阿南〉	課名	農村保全	採択年度	H25

環境配慮の内容：④軽減/消失

- ・ため池改修工事において、水抜きする際に、徐々に水を排出し、在来水生動物が避難できるように配慮した。
- ・工事により影響のある水田の表土（ミズマツバの埋土種子を含む）を影響の無いところに仮置きし、工事後に戻すことにより地域植生への配慮を行った。
- ・堤体内側の張りブロックについて、多孔質のコンクリート製品を堤体の一部に使用した。

④軽減/消失

水抜きする際に、斜樋を上から順に空けていくなど、徐々に水位を下げるとともに、ため池内部に溜水域を確保し、モノアラガイが避難できるように配慮した。

(1) ため池内溜水域状況



(2) モノアラガイ生息状況



④軽減/消失

工事により影響のある水田の表土（ミズマツバの埋土種子を含む）を影響の無いところに仮置きし、工事後に戻すことにより地域植生への配慮を行った。



④軽減/消失

ブロックマットを施工することにより水生生物の待避場所を確保した。



事業名	ため池等整備事業	地区名	源太池	市町村	阿波市
事業所名	東部農林水産局〈吉野川〉	課名	農村整備	採択年度	H26

環境配慮の内容：②最小化 張りブロックにブロックマットを採用
 ④軽減/消失 コカモメヅルを現地から一時回避
 水田の表土を工事影響外に仮置き
 干上げ時に在来魚類を近傍の池に放流

②最小化

堤体内側の張りブロックにブロックマットを採用し、多孔質のコンクリート製品と同程度の環境を堤体全面に確保。

（1）ブロックマット敷設全景



（2）ブロックマット敷設近景



④軽減/消失

工事中進入路の影響範囲に生息するコカモメヅルを移植し、専門家による管理の下モニタリングを行った。

（1）一時消失（H29.1）



（2）夏期に再生（H29.6）



事業名	ため池等整備事業	地区名	源太池	市町村	阿波市
事業所名	東部農林水産局〈吉野川〉	課名	農村整備	採択年度	H26

環境配慮の内容：②最小化 張りブロックにブロックマットを採用
 ④軽減/消失 コカモメヅルを現地から一時回避
 水田の表土を工事影響外に仮置き
 干上げ時に在来魚類を近傍の池に放流

④軽減/消失

(1) 水田の表土を工事影響外に仮置



(2) 同左



④軽減/消失

工事に先立つ干上げの際に駆逐すべき外来種は発見されず、在来種は同水系の近傍ため池に移動し放流。

(1) ギンブナを採取



(2) ギンブナの放流状況



事業名	農村地域防災減災事業	地区名	那賀川・小松島	市町村	小松島市
事業所名	東部農林水産局<徳島>	課名	農村整備第一	採択年度	H27

環境配慮の内容：④軽減／消失

工事期間中、希少植物（クロモ）を影響を受けない場所へ避難させた。

④軽減／消失

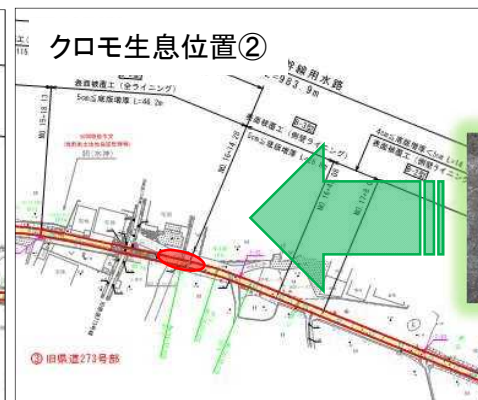
用水路内に生息する希少植物（クロモ）を一時的に避難させるため、生息位置の調査を専門家の協力のもと実施した。

生息位置の確認後、影響を受けるとされる個体の採取を行い、用水路補修工事完了後、元の位置に戻す予定。

①クロモの生息位置確認作業（平成29年6月23日実施）



②クロモの生息位置確認作業と個体採取（平成29年10月4日実施）



農業農村整備事業の環境配慮計画・実績(H29まで)

青色の箇所は、H28年度までの環境配慮の実績

添付資料：H29年度の環境配慮の実績

参考資料

平成30年3月現在の状況

採択 番号	採択 年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等(予定)
1	H15	土地改良総合整備事業	昭和2期 (阿波市)	④軽減/消失	・在来水生動植物の生息環境の保全のため、現況開水路を存置し用水を流すことを、地元関係者に協力を求める。 ・カワヂシャの保全のため、農道の路線変更(回避)或いは移植(代償)を検討する。	④軽減/消失	・地元関係者の協力により、現況開水路に用水を流下させている。 ・徳島県立博物館の小川主任学芸員に相談、検討したところ、「付近広範囲にカワヂシャが生育していたので、特に移植等は必要なし。」ということで、特別な対応はしていない。	モニタリング 結果等(予定) ・工事前と同様の環境が保全されている。
2	H15	土地改良総合整備事業	上喜来2期 (阿波市)	①回避 ⑤代償	・水生動植物の生息環境の保全のため、水路側壁の工法の検討を行う。	②最小化	・農業用排水路の、水路側壁に緑草ブロックを設置し、植物の生育環境及び景観に配慮した。	・工事後植物が繁茂している。
3	H15	中山間地域総合整備事業	相生中央 (那賀町)	②最小化 ④軽減/消失	・計画路線付近に生育する希少植物(ユキモチソウ)に配慮する。	④軽減/消失	・希少植物(ユキモチソウ)を痛めないように、ロープを張って注意して施工した。	・平成19年4月に開花を確認した。
4	H15	農免農道事業	池田2期 (池田町)	②最小化	・取水堰の計画にあたりは、魚類(ヤマトヌマエビ)が遡上できる構造を検討する。	②最小化	・取水堰は、魚類(ヤマトヌマエビ)が遡上できる構造(石張りのスロープ)にした。	・平成19年夏・秋季の2回モニタリング調査を実施。
				①回避 ②最小化	・水田内のよげ(山際の土水路)を残す等により、水田依存種(ドジョウ等)の保全を検討する。	②最小化	・水田内のよげ(山際の土水路)を再設置し、水田依存種(ドジョウ等)の生息環境に配慮した。	・ヤマトヌマエビは、取水堰の上下流で確認された。 ・ドジョウ等の生息は、個体が確認された。
				②最小化	・農村環境・景観保全のため、適切な畦畔の管理あるいは石積みみの再利用をおこなう。	②最小化	・農村環境・景観保全のため、適切な畦畔の管理あるいは石積みの再利用をおこなった。	
5	H15	農免農道事業	美馬中野 2期 (美馬市)	④軽減/消失	・道路を横断する谷川(横断暗渠)は、魚類(ナガレホトケドジョウ)が遡上できる構造を検討する。	②最小化	・池田2期地区の事業計画の見直しにより、計画箇所の工事施工は、池田地区での実施に変更となった。	
				②最小化	・側溝の整備において、ヒキガエル等の徘徊性動物の移動経路を確保するため、落下しないあるいは這い上がられる構造を検討する。	②最小化	・側溝の整備は、魚類(ヤマトヌマエビ)が遡上できる構造(石張りのスロープ)にした。	
				①回避 ⑤代償	・農道計画路線上に生育している、希少植物(ヤブサンザシ・カンアオイ)に配慮を検討する。	①回避 ⑤代償	・希少植物(ヤブサンザシ・カンアオイ)は、調査範囲を広げて生育調査をしたところ、付近に個体の生育を確認したため、専門家と相談の上特に移植等は行っていない。	
				①回避 ⑤代償	・農道路線選定にあたっては、希少植物(ヤブサンザシ)の回避または移植(代償)を検討する。	①回避 ⑤代償	・イノシシの害を仕掛けるためとりのけられ消失したため、配慮対策ができなくなった。	

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
6	H15	ため池等整備事業	水晶池 (鳴門市)	②最小化	・堤体下流側法面に、在来植物の植生を復元する。	②最小化	・堤体下流側法面に、在来植物の植生を復元した。	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年夏・秋季の2回モニタリング調査を実施。(秋は、補足的に実施) ・堤体下流側法面と自然型擬石ブロックの間隙部に、在来植物の生育を確認した。
				②最小化	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張等を実施し、植生空間を創る。	②最小化	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張を実施し、植生空間を創った。	
				④軽減/消失	・工事期間中の水生生物の生育環境の確保をおこなう。	④軽減/消失	・工事期間中の水生生物の生育環境に配慮するため、浅瀬の水たまりを創設した。	
7	H15	ため池等整備事業	池谷池 (阿波市)	②最小化	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張を実施し、植生空間を創る。	②最小化	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張を実施し、植生空間を創った。	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年8月にモニタリング調査を実施。 ・自然石法面の間から植生が見られ、水生生物の生育環境が創設されている。
				②最小化	・水生植物の生育環境及び生育空間の確保を行う。	②最小化	・コンクリート水路の側壁部及び底版部に植生ヤシマツを設置し、水生植物の生育空間確保と水質浄化を図った。	
8	H15	河川応急対策事業	長岸寺西 (松茂町)	④軽減/消失	・堤体法面部の植生に対する配慮対策として、盛土には現況の植生土壌を使用する。	④軽減/消失	・堤体法面部の、盛土には現況の植生土壌を使用した。	
				⑤代償	・工事区域に生育する、希少植物(コイスガラシ)に、移植を検討する。	⑤代償	・パイプラインの施工にあたり、希少植物(コイスガラシ)を、約15株移植した。	
9	H15	地盤沈下対策事業	藍住2期 (藍住町)	①回避	・排水路工事区域に生育する、希少植物(フジバカマ・ミスズマツバ・スズメハコ)に配慮する。	①回避	・排水路工事区域に生育する、フジバカマに配慮し、排水路の計画位置を変更し、回避して施工した。	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年度の夏期の大雨によって、枯れてしまった。 【原因】 <ul style="list-style-type: none"> ・移植先での水不足があった。今後 の移植について注意する。
				③修正	・水生動植物(メダカ・ドジョウ)の生息環境に配慮する。	③修正	・ポンプ場内に、遊水池を設け、トンボ等の水生動植物の生息空間を設置した。	
10	H16	経営体育成基盤整備事業	平島上 (那賀川町)	②最小化	・両生類(トノサマガエル)の生態系に配慮する。	②最小化	・水路側壁に水路から水田への移動可能なスロープを設置した。	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年に専門家による、モニタリング調査を実施した。
				④軽減/消失		④軽減/消失		

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
11	H16	広域農道事業	徳島東部 3期 (徳島市他)	①回避 ⑤代償	・農道計画路線上に生育している、希少植物(ギンラン・イズハハコ)に配慮を検討する。	⑤代償 -	・計画路線の変更は困難なため、希少植物(ギンラン)の移植を行った。 ・希少植物(イズハハコ)は、調査範囲を広げて生育調査をしたところ、付近に多数の個体の生育を確認したため、移植等は行っていない。	・ギンランについて、移植先周辺で生育状況の調査を行ったが、確認出来なかった。 【原因】 ・鳥獣被害等により、移植箇所周辺において生育環境に変化があったため、今後の移植には留意する。
				②最小化	・道路側溝に小動物(カエル、ヘビ等)の這い上げられる構造を検討する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				①回避 ⑤代償	・計画路線上に生息している、タシロランへの生育に配慮する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
12	H16	農免農道事業	高部5期 (吉野川市)	②最小化	・道路横断暗渠(谷川)を、魚類(カワヨシノボリ等)が移動可能な構造を検討する。(円形コレクターパイプ等)。	未	工事を実施中	工事を実施中
				①回避 ⑤代償	・農道計画路線上に生育している、希少植物(セトウチホトギス・ミヤコアオイ)に配慮し、回避又は移植を検討する。	①回避	・農道計画路線を再検討し、希少植物(セトウチホトギス・ミヤコアオイ)の生育に配慮し、路線計画を変更し、回避した。	
				①回避 ⑤代償	・農道計画路線上に生育している、希少植物(サケバゼリ)に配慮し、回避又は移植を検討する。	①回避	・再調査の結果、普通のゼリだったため、特に対策は無し。	
13	H16	国営附帯景観農地防災事業 (上坂町・板野町)	六条 (上坂町・板野町)	②最小化	・道路側溝は、地上徘徊性動物(ヒバカリ/ヘビの1種)が這い上げられる構造を検討する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・在来の水生動物等の生息空間の保全のため、現況開水路を存置し用水を流すことを、地元関係者に協力を求める。	④軽減/消失	・地元関係者の協力により、現況開水路に用水を流下させる放水管の設置を行った。	
				①回避 ⑤代償	・工事区域に隣接して生育している、希少植物(コイスガラン)の配慮(移植等)を検討する。	①回避	・コイスガランの生育箇所は農地の畦畔部であり、道路区域内でのパイプライン工事の方法等を検討した結果、生育区域への影響が無いように工事を施工した。	
14	H16	ため池等整備事業	神明池 (阿波市)	②最小化 ④軽減/消失	・水生生物(トウヨシノボリ、モクスガニ・トンボの幼虫等)の生息環境の保全のための配慮を検討する。	②最小化	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張を実施し、植生空間を創る工事を実施。	・植生が繁茂してきており、生育環境を保全できていない。
				②最小化 ④軽減/消失	・堤体部の植物(ナンテンハギ)保全のため、移植等を検討する。	②最小化	・工事区域内のナンテンハギは、確認されなかった。又、調査区域を広げたところ工事区域外に植生が確認された。	
				⑤代償	・ため池の落水に伴う、工事期間中の水生生物への生息環境に配慮を検討する。	⑤代償	・工事中におけるモクスガニに配慮し、事前に移動した。	
15	H16	ため池等整備事業	糟池 (吉野川市)	②最小化 ④軽減/消失	・水生生物(メダカ、エビ、トンボ等)保全のため、堤体護岸の工法を一部自然石張護岸にする等の配慮を検討する。	②最小化	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張を実施し、植生空間を創る工事を実施した。	
				②最小化 ④軽減/消失	・堤体部の植物(コカモメヅル)保全のため、配慮する。	④軽減/消失	・工事に当たり、コカモメヅルを一時避難し、工事完了後、現況生育付近に復元させた。	・平成19年6月に移植後、消滅していることが判明したことから、平成21年11月に再移植した。
				⑤代償	・ため池の落水に伴う、工事期間中の水生生物への生息環境に配慮を検討する。	⑤代償	・工事中における水性生物(メダカ、コイ)に配慮し、事前に移動した。	

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
16	H16	中山間地域総合整備事業	牟岐 (牟岐町)	②最小化 ④軽減/消失	<ul style="list-style-type: none"> 取水堰の計画にあたりは、魚類(ヤマヌマエビ)が遡上できる構造を検討する。 希少種(ミズワラバ、スズメハコベ、ウスゲテヨウジダデ)が入った表土を仮置き、ほ場整備後にその表土を戻した カニ・カエル・ヘビ等の生息環境の保全を検討する。 農業用水路に、カエル・ヘビ・イモリ等の徘徊生小動物の脱出用のスロープ等の設置を検討する。 	②最小化 ④軽減/消失	<ul style="list-style-type: none"> 取水堰は、魚類(ヤマヌマエビ)が遡上できる構造(石張りのスロープ)にした。 ほ場整備において、希少種(ミズワラバ、スズメハコベ、ウスゲテヨウジダデ)が入った、現況の表土を戻した 排水路に、カニ・カエル・ヘビ等の生息環境に配慮し、石積み及びフトン籠等による護岸を設置した。 カエル・イモリ等の徘徊生小動物の脱出用のスロープ等の設置を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度調査により、堰上流部でヤマヌマエビの生息を確認した。 平成20年度調査により、希少種(ミズワラバ、スズメハコベ)を確認した。なお、今回の調査では、ウスゲテヨウジダデは確認されなかった。
17	H16	中山間地域総合整備事業	池田南部 (池田町)	②最小化	<ul style="list-style-type: none"> 道路側溝等について、徘徊性動物(アカガエル)に配慮し、這い上がれる構造を検討する。 	②最小化	<ul style="list-style-type: none"> 道路側溝はアカガエル等が這い上がれる構造とした。 	
18	H17	経営体育成基盤整備事業	今津南部 (阿南市)	①回避 ⑤代償 ⑤代償 ⑤代償 ⑤代償 ⑤代償	<ul style="list-style-type: none"> 希少植物(アゼオトギリ)の群落のある土水路はそのまま残し、従来の水環境を維持する。 希少植物(アゼオトギリ)の植生が確認されたため、移植を行う。 希少植物(ミズタカモジ)の移植を行う。 希少植物(ミズマツバ、スズメハコベ)の植生が確認されたため、移植を行う。 希少植物(フジバカマ、コウホネ)に配慮し、移植を行う。 希少植物(ミズオオバコ、サンショウモ、ホツスモ)に配慮し、移植を行う。 田んぼの水生生物(メダカ、ドジョウ等)に配慮し、排水路の側壁や底部に凸凹部区間を設け、生息場所の配慮を検討する。 田んぼの水生生物(メダカ、ドジョウ等)に配慮し、水田と排水路を結び、魚道を設置する。 	①回避 ⑤代償 ⑤代償 ⑤代償 ⑤代償 ⑤代償	<ul style="list-style-type: none"> 希少植物(アゼオトギリ)の群落のある土水路はそのまま残した。 希少植物(アゼオトギリ)の植生が確認されたため、ポンプ場予定地の水路に仮移植を行った。(ポンプ場完成後、遊水池の付近に再移植を行う予定) ミズタカモジ生育箇所の土を仮置した後、畦畔に利用し生育確保を図った。 ミズマツバ、スズメハコベの生育箇所の畦土を剥ぎ取り、他の土と区別し一時保管。この土を工事後の畦に戻した 配慮箇所周辺の工事未実施 配慮箇所周辺の工事未実施 田んぼの水生生物(メダカ、ドジョウ等)に配慮し、排水路の側壁に魚巢ブロックを設け、生息場所の配慮をした。 田んぼの水生生物(メダカ、ドジョウ等)に配慮し、排水路の側壁に魚巢ブロックを設け、生息場所の配慮をした。 田んぼの水生生物(メダカ、ドジョウ等)に配慮し、排水路の側壁に魚巢ブロックを設け、生息場所の配慮をした。 水路側壁に水路から水田への移動可能なスロープを設置し、田んぼで生息する小動物(トノサマガエル、両生類、は虫類)に配慮を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門家により個体数の増加が確認された。 未 未 未 工事の未実施 工事の未実施 未 工事の未実施 工事の未実施
19	H17	国営附帯県営農地防災事業	大津東部東 (鳴門市)	①回避 ⑤代償	<ul style="list-style-type: none"> パイプライン計画路線上に生育している、希少植物(ハマボウ)に配慮し、回避又は移植等を検討する。 	①回避 ⑤代償	<ul style="list-style-type: none"> 配慮箇所周辺の工事未実施 配慮箇所周辺の工事未実施 	<ul style="list-style-type: none"> 工事の未実施 工事の未実施

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
20	H17	ため池等整備事業	寺谷池 (吉野川市)	②最小化 ④軽減/消失	・水生生物(メダカ、タモロコ、イシガメ等)保全のため、堤体護岸の一部を自然石張護岸とする等の配慮を検討する。 ・ため池の落水に伴う、工事期間中の水生生物への生息環境に配慮を検討する。	②最小化 ④軽減/消失	・堤体上流側法面に自然型擬石ブロック張を実施し、植生空間を創る工事を実施。 ・工事期間中の水生生物の生育環境に配慮するため、浅瀬の水たまりを創設した。	・5種の魚類、5種の貝類・甲殻類が確認された。
21	H17	農免農道事業	板野中部 2期 (板野町)	④軽減/消失 ⑤代償	・希少植物(コイスガラシ)の生育環境に、配慮を検討する。	④軽減/消失 ⑤代償	・工事により、喪失する田、畦の表土を取り置きしておき、工事後付近の同様の場所にもどした。	未
22	H17	中山間地域総合整備事業	脇中央 (美馬市)	②最小化 ④軽減/消失	・希少植物(ツクシラン、ウガイイカガ、クナシガサ)の配慮を検討する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
23	H17	中山間地域総合整備事業	三好 (三好市)	②最小化	・道路側溝等の構造物について、排他性動物(カエル、ヘビ)が這い上がれる構造とする。 ・取水堰の計画にあたっては、魚類が遡上できる構造とする。	①回避	・詳細設計の結果、道路側溝が不要となったため、側溝等をせず施工した。	
24	H18	経営体育成基盤整備事業	古養水・東北 (阿波市)	①回避 ⑤代償 ①回避 ①回避 ③修正 ④軽減/消失 ②最小化 ③修正	・排水路計画路線上に希少種(ヤマバイバラ)が確認されたため、排水路の路線を検討する。 希少植物(ユキモチソウ)を回避して増川排水路改修工事を行う。 ・ため池改修に際し、魚類(トウヨシボリ)の保全を検討する。 ・調整水槽近傍にピオトープを創出し、希少水生動物(メダカ、ヒメマルタニシ、コオイムシ)の生息環境を確保する。	①回避 ①回避 未 ②最小化	・希少種(ヤマバイバラ)の生息に配慮し、排水路の路線を一部変更し、回避した。 ・希少種(ユキモチソウ)の生息に配慮し、生育区域を囲い回避した。 配慮箇所周辺の工事未実施	・排水路の横で、良好に生育している。
25	H18	経営体育成基盤整備事業	御所 (阿波市)	②最小化 ③修正 ④軽減/消失	・希少植物(カワジシャ)の、生育環境に配慮するため既存水路に水を流すことを、地元関係者に協力を求める。 ・希少植物(センダイスゲ、コカモメヅル)は、一時避難及び生育土壌を工事後に戻すなどの配慮を行う。 ・希少植物(カワジシャ)の、生育環境に配慮するため既存水路に水を流すことを、地元関係者に協力を求める。	①回避 ④軽減/消失 未	・支線パイプライン配管ルートの変更により、当該希少植物の生息環境の改善を回避した。 ・地元関係者の協力により、現況開水路に用水を流下させている。 配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・希少植物(ナンテンハギ、ヒメミノハギ、コギンギシ)は、一時避難及び生育土壌を工事後に戻すなどの配慮を行う。	①回避	・生息箇所は農地の畦畔部であり、道路区域内でのパイプライン工事の方法等を検討した結果、生育区域への影響が無いうように工事を施工した。	

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
26	H18	国営附帯営農地防災事業	大山 (上板町・ 板野町)	②最小化 ④軽減/消失 ⑤代償	・希少植物(ヒメシロハギ)の配慮し、仮移植し工事後戻す等について検討する。 ・水生動物の生息環境に配慮するため、既存水路に水を流すこと、地元関係者に協力を求める。	①回避 ④軽減/消失	・仮設道路計画路線を変更することで、希少植物への影響を回避した。 ・かんがい期に既存水路へ水を流すことで、水生動物の生息環境に配慮した。	
27	H18	ため池等整備事業	奥の池 (美馬市)	④軽減/消失 ⑤代償	・希少植物(ミノナオシ)については、工事前に種を採取し、工事後に付近に播く。 ・希少生物(モノアラガイ)については保護し、工事後に上のため池に戻す。 ・希少植物(ソクシンラン)については、詳細計画により影響があれば、移植を検討する。	①回避	・仮設道路計画路線を変更することで、希少植物への影響を回避した。 ・池の水を抜く際に個体採取を試みたが、モノアラガイが発見できず、採取できなかった。 ・詳細計画(仮設工を含む)の結果、工事範囲に掛かっておらず、ソクシンランには影響が無い。	
28	H18	豊免農道事業	勝浦南部上 3期 (勝浦町)	④軽減/消失	・希少植物(イトモ)については工事中は工事による個体への影響を少なくするため、冬期に工事を行う。 ・特に配慮する希少種等はないため、小動物や虫類等の移動経路の確保のため、側溝や升、横断工を設置する場合、高い上られる構造とする。	④軽減/消失	・イトモ生育箇所を土を仮置した後、工事完了後に戻す予定。 ・盛り土法面下部の水路に、小動物が這い上がる構造を施工した。	工事を実施中
29	H18	河川応急対策事業	有天第2 (徳島市)	④軽減/消失	・特に配慮を行う希少種等はないため、周辺に生息する水生動物に配慮し、工事中の濁水に留意する。	④軽減/消失	・工事中の作業機械を低公害型の機種にし、重機からの油類の流出、飛散に注意する。また、水質汚濁に注意するため、シルトフェンセスを使用しながら、現在工事を実施中である。	
30	H18	中山間地域総合整備事業	那賀川西部 (阿南市)	④軽減/消失	・道路計画路線内の水田に希少植物(ミズマツバ)が確認されたため、水田土壌の再利用を行う。	④軽減/消失	・希少植物(ミズマツバ)の種子を含む水田土壌の仮置きを行い再利用し、工事を施工した。	未
31	H19	経営体育成基盤整備事業 (排水対策型)	竹須賀 (徳島市)	②最小化 ③修正 ④軽減/消失	・希少水生動物(モロコ、ヤリタナゴ、モクスガニ)の生息環境に配慮するため、水路構造の検討及び在来水生植物の生育区間を確保する。	②最小化 ④軽減/消失	・底版中央部はコンクリートを張らず、土砂溜まり部分をつくり在来水生植物の生息空間を確保した。	・平成24年度調査において、魚類6種(ヤリタナゴ、コウライモロコ等)を確認した。
32	H19	ため池等整備事業	藤谷池 (阿南市)	④軽減/消失	・希少植物(スズサイコ)は、工事中一時避難し、工事後に戻すなどの配慮を行う。 ・水生動物(ドブガイ)に配慮し、溜水内に移動させる等の配慮を行う。	④軽減/消失	・希少植物(スズサイコ)は、堤体が工事中であるため一時避難させている。 ・水生動物(ドブガイ)に配慮し、浅瀬の水たまりを創設した。	・平成26年度調査において、スズサイコを確認した。
33	H19	ため池等整備事業	一の坪 (吉野川市)	②最小化 ④軽減/消失 ⑤代償	・希少植物(ホツスモ)については工事中は工事による個体への影響を少なくするため、冬期に工事を行う。また、湿潤の環境を保全する。 ・希少植物(コカモメヅル)は、工事中一時避難し、工事後に戻すなどの配慮を行う。また、種を採取し、工事後付近に播く。	②最小化 ④軽減/消失	・希少植物(ホツスモ)については工事による個体への影響を少なくするため、冬期に工事を行った。また、工事範囲以外には立ち入らない。 ・希少植物(コカモメヅル)は、専門家の指導の下、種子を採取し栽培すると共に、工事の影響のない類似環境に一時移植し、生育を確認した。	・平成22年度は4箇所が開花を確認したが、平成23年度には確認できなかった。

番号	採択年度	事業名	地区名(所在地)	環境配慮5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング結果等(予定)
34	H19	湛水防除事業	上八万(徳島市)	④軽減/消失	・特に配慮を行う希少種等はないため、周辺に生息する水生動植物に配慮し、工事中の濁水に留意する。	④軽減/消失	・工事中の排水について、濁水を排出しないように、沈砂水槽を設置した。	
35	H19	経営体育成基盤整備事業	路間(鳴門市)	④軽減/消失	・希少植物(コギシギシ・オオアブノメ等)は、生育土壌を工事後に戻すなどの配慮を行う。	④軽減/消失	・希少植物(コギシギシ・オオアブノメ等)は、生育土壌を工事後の盛土に使用したり、環境型ブロックの覆土使用するなど配慮を行った。	工事を実施中
36	H19	中山間地域総合整備事業	三野西部(三好市)	⑤代償	・平成29年度工事予定箇所から絶滅危惧種のオニバスが確認された。オニバスの種子を採取し、水路工事後、環境配慮型の水路(緑田型水路)に、播種する。	②最小化	・増殖したカワバタモロコを地区上流のため池(H26)と水路(H29)に放流した。H29に生息が確認されたがH30以降も確認を行う。 また、自然環境に近いピオトープ池で育った親魚により耐性に強い種苗生産を行い放流を行う予定。	未
37	H20	河川応急対策事業	大井堰(海陽町)	②最小化 ③修正 ④軽減/消失	・平成29年度工事予定箇所から絶滅危惧種のオニバスが確認された。オニバスの種子を採取し、水路工事後、環境配慮型の水路(緑田型水路)に、播種する。	⑤代償	・希少魚類(カワバタモロコ等)の生息環境に配慮して片側を勾配のある(1:1.5)環境型ブロック護岸とし残り2面はL型柵架とし底版中央部はコンクリートを打設しない排水路構造としている。また、地権者の理解の得られたレンコン田には魚道の設置を行う予定である。	・生育していることを確認した。
38	H20	河川応急対策事業	長田堰(徳島市)	②最小化	・希少植物(シヤコアオイ・アケボノシュラ)について、工事に影響のある個体を代替地に移植する。	⑤代償	・オニバスの種子を採取し、水路工事後、環境配慮型の水路(緑田型水路)に、播種した。	・移植先において生育していることを確認した。
39	H20	国営附帯常営農地防災事業	唐園(上板町・板野町)	④軽減/消失	・希少植物(サデグサ・クロモ)は、パイプライン化による直接的な影響はないが、生育環境は保全する。	④軽減/消失	・摩耗の激しいエプロンを補修するに当たり、左右岸部は植え石魚道として整備することにより多種の魚介類の移動を可能とした。 ・伐落しし部を魚道として整備することにより、多種の魚介類の移動を可能とした。 ・施工時の作業ヤードを河川内に設け、在来植生への影響を軽減した。	・平成25,26年春にアユの遡上を確認した。また、9月にはエビの遡上も確認した。 在来植生への影響は見られない。
				④軽減/消失	・工事中の土砂流出や濁水流出に注意し、または、重機からの油流出に注意し、在来水生動物生育環境への影響を少なくする。	④軽減/消失	・水路内の希少植物(タコノアシ・ウマスガ)については、水路の通水を確保することにより湿地環境を保全した。 ・今回の工事範囲については河道内のタコノアシの生息域には影響が及ばない。	
				④軽減/消失	・希少植物(サデグサ・クロモ)は、パイプライン化による直接的な影響はないが、生育環境は保全する。	④軽減/消失	・シルトフェンスの施行により汚濁を防止し、在来水生動物の生育環境に配慮した。	未
				②最小化	クロモ生育地付近の工事は、出来る限り冬期に実施し、生育している水路については、4月から9月まで既存水路に水を流すことを、地元関係者に協力を求める。	②最小化	・現地発生土で埋戻しを行い、生息環境を保全した。	未

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
40	H20	基幹農道事業	池田3期 (三好市)	④軽減/消失	・農道計画路線付近に生育している、希少植物(ヤブサンザシ、カンアオイ)に 施工中に土砂が流れ落ちないように対策をする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				①回避	・農道計画路線付近に生育している、希少植物(エビネ、ミヤコアオイ) に影響が無いように回避して施工をする。	①回避	・現場作業員に踏みつけや不必要な伐採はしないよう指示し、希少植物(エビネ、ミヤコアオイ)に影響が無いように回避して施工を行った。	
				③修正	・溪流横断面部については、橋梁もしくはボックスカルバートの構造をナカレ ホトトギス等が遡上できる構造とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
41	H21	経営体育成基盤整備事業	大幸 (鳴門市)	④軽減/消失	・希少植物(サデグサ・コギンギン)等は、生育土壌を工事後に戻すなどの 配慮を行う。	④軽減/消失	・希少植物(サデグサ・コギンギン)等は、生育土壌を工事後の盛土に使用したり、環境型ブロックの覆土使用するなどの配慮を行った。	工事を実施中
				②最小化	・希少魚類(ドジョウ等)や周辺地域で生息が確認された(カワバタモロ コ等)の生息環境に配慮した排水路の構造とする。	②最小化	・希少魚類(カワバタモロ等)の生息環境に配慮して片側を勾配のある(1:1.5)環境型ブロック護岸とし残り2面は型枠築とし底版中央部はコンクリートを打設しない排水路構造としている。また、地権者の理解の得られたレンコン田には魚道の設置を行う予定である。	未
42	H21	農道整備事業	大麻西2期 (鳴門市)	②最小化	地区内水路網の連続性を確保する。	未	工事を実施中	工事を実施中
				④軽減/消失	ヒメタデは生息地の土壌、アゼスゲは個体を、タコノアシは個体と生息地の土壌を工事に影響のないところへ移動しておき工事後戻す。	未	工事を実施中	工事を実施中
43	H22	経営体育成基盤整備事業	坂野2期 (小松島市)	⑤代償	ヒメタデ(生息地の土壌)、アゼスゲ(個体)、タコノアシ(個体と生息地の土壌)を代替の生育場所へ移植する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				②最小化	・希少植物(ヒメナミキ・クロモ)は、水路内に土砂が堆積する環境を保全する。希少水生動物(ヤリタナゴ・ヌマムツ等)の生息空間を有した水路構造とする。	②最小化	・水路断面の側壁上部を無ライニング(土羽)とすることで、土砂堆積が可能な環境を創出し、希少植物や水生動物の生育環境を保全した。	未
				④軽減/消失	・希少植物(ミズワラビ・クロモ等)は、生息地への影響を軽減する。	④軽減/消失	・工事を冬季に実施することにより影響を軽減した。	
				⑤代償	・希少植物(ミズタカモジ・アゼスゲ等)は、代替えの生息地へ移植する。	④軽減/消失 ⑤代償	・希少植物(ミズタカモジ)を代替の生育場所へ移植するとともに、種子を採取し、工事の完了している畦畔に播種した。 ・希少植物(アゼスゲ)を一時避難させ、工事了後に生育環境に適した場所へ移植を行った。	・移植箇所において、良好に生育していることを確認。

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
44	H22	ため池等整備事業	敷地池 (吉野川市)	②最小化	在来水生動物の生息環境への影響を工法の選定などによりできる限り少なくする。 ・希少植物(ミゾウジュ・スズメノコビエ等)は工事期間中避難させ工事後の場所へ戻す。在来水生動物については、工事による影響を軽減し、下流域に与える影響をできるだけ極力少なくする。	②最小化 ④軽減/消失	・堤体上流側法面にブロックマットを実施し、植生空間を創る工事を実施。 ・希少植物(スズメノコビエ・コカモザル)は工事期間中、影響を受けない場所に回避させており、工事完了後に元の生育場所に戻す予定。 ・生育区域への影響が無いように工事を施工した。	・植物が繁茂してきている。 ・回避箇所において、良好に生育していることを確認。
45	H23	ため池等整備事業	新池 (三好市)	⑤代償	・希少植物(ミゾウジュ・イヌセンブリ等)は、類似環境の生育場所に移植する。	②最小化	・堤体内側の張りブロックについて、魚介類の生息場所としての水際植物が生育できる環境配慮型護岸(ブロックマット)を使用した。	・過年度に実施した箇所については、植物が繁茂してきている。
46	H23	経営体育成基盤整備事業	長生西部 大原工区 (阿南市)	①回避 ②最小化 ④軽減/消失	・在来水生動物については、工事による影響を軽減し、下流域に与える影響をできるだけ極力少なくする。 ・大津田川と三日月湖を結ぶ水路について、連続性を保つため現況のまま残す。 ・幹線排水路の構造を、多孔質(石張、魚巣箱)とし、水生動物の生息空間を復元する。 ・幹線排水路底版部の構造を、多孔質(石張)とし、水生植物の生育空間を復元する。(オグロコウホネ、アイノコヒルムシロ) ・大津田川と排水路の連続性を保つため、接続部に段差を付けない。	①回避 ②最小化 ④軽減/消失	・工事実施に当たり、ため池内に生息する水生生物を同一水系のため池に避難放流した。 ・大津田川と三日月湖を結ぶ水路について、連続性を保つため現況のまま残した。 ・排水路底版部を現地発生石を利用した多孔質(石張)とし、側壁部には魚巣ブロックを設置し、水生動物の生息空間を復元した。 ・排水路底版部を現地発生石を利用した(多孔質)石張とし、希少植物(オグロコウホネ、アイノコヒルムシロ)を水路完成後に移植した。 ・大津田川と排水路の接続部にスロープを設置し、連続性を確保した。	未 未 未
				③修正	・簡易型水田魚道の取付	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・濁水流出対策として、工事現場内に沈砂地の設置及び、工事中の作業機械の点検整備に努め、重機からの油類の流出・飛散に注意して工事をを行った。	工事の未実施
				⑤代償	・種子と生育土壌を採取、保存しておき、整備後の田畦に移植する。(ミズタカモジ、アゼスゲ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				⑤代償	・種子と生育土壌を採取、保存しておき、大谷工区の類似環境へ移植する。(ノニガナ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				⑤代償	・種子と生育土壌を採取、保存しておき、三日月湖の類似環境へ移植する。(フサスゲ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
46	H24	経営体育成基盤整備事業	長生西部 大谷工区 (阿南市)	①回避	・現況の生育環境を残し、営農の中で生育地周辺の維持管理(草刈り)を継続していく。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				②最小化	・排水路の構造を、多孔質(石張、魚巣箱)とし、水生動物の生息空間を復元する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				②最小化	・排水路底版部の構造を、多孔質(石張)とし、水生植物の生育空間を復元する。(オグロコウホネ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				③修正	・大津田川と排水路の連続性を保つため、接続部に段差を付けない。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				③修正	・簡易型水田魚道の取付	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・濁水流出対策として、工事現場内に沈砂地の設置及び、工事中の作業機械の点検整備に努め、重機からの油類の流出・飛散に注意して工事を行った。	
				④軽減/消失	・水田表土の再利用を行い生育環境を復元する。 (ミズワラビ、ミスマツバ)	④軽減/消失	・希少植物の種子を含む表土を剥ぎ取って保管し、整備後の水田の表土として再利用することで、生育環境の復元に努めた。	工事中
				⑤代償	・生育地の土壌をブロック移植し、種子を採取しておき移植先周辺に播種する。 (アオヒメタデ、ミズタカモジ、アゼスゲ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				②最小化	・堤体内側の張りブロックについて、魚介類の生息場所としての水際植物が生育できる環境配慮型護岸(多孔質の張りブロック等)を堤体の一部に使用する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				②最小化	・堤体外側の法面保護として、シハ等の在来種による緑化を行い、外来種の侵入を抑制する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
47	H24	ため池等整備事業	坊僧池 (美馬市)	④軽減/消失	・ため池の水を抜く際、徐々に水を排出し、ため池内部に溜水域を確保し、在来の水生動物が避難できるようにする。	④軽減/消失	・地元水利組合と連携し、ため池の水を計画的に抜くことに努めている。	
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意した。	
				④軽減/消失	・工事後の植生の復元が速やかに行われるよう、工事による改善・影響を極力少なくする。	④軽減/消失	・近傍に聴舍があることから、取水期以外は池の水を落水ししており、この落水期間に合わせて工事を実施した。	

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
48	H25	ため池等整備事業	相名池 (阿南市)	②最小化	・堤体内側の張りブロックについて、多孔質のコンクリート製品を堤体の一部に使用する。	②最小化	・堤体上流側法面にブロックマットを実施し、植生空間を創る 工事を実施。	未
				④軽減/消失	・ため池の水を抜く際、徐々に水を排出し、ため池内部に溜水域を確保し、在来の水生動物が避難できるようにする。	④軽減/消失	・ため池の水を抜く際に、徐々に水を排出し、在来の水生動物が避難できるようにした。	
				④軽減/消失	・工事により影響のある水田の表土(ミズマツバの埋土種子を含む)を影響の無いところに仮置きし、工事後に戻す。	④軽減/消失	・表土の仮置を行った。堤体工事後に元の場所に戻す。	未
				④軽減/消失	・工事に関わる作業ヤードは必要最小限度とする。 池も干上げの際、オオクチハス(特定外来種)を駆逐する。	④軽減/消失	・工事に関わる作業ヤードは必要最小限度の範囲とした。(なお、オオクチハスは、池内には生息していなかった。)	
49	H26	農村地域防災減災事業	大幸西 (鳴門市)	②最小化	・水量が減少すると考えられる既存水路に、計画の排泥工より適量の水を流し、水生動物への生息環境を保全する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				③軽減/消失	・工事の影響を受けるサデクサ、ミズアオイは生息地の土壌を、コギンギンは個体を、工事の影響の無いところへ移動し、工事後に戻す、または近隣の類似環境の場所へ移植する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
50	H26	ため池等整備事業	源太池 (阿波市)	②最小化	・堤体内側の張りブロックについて、多孔質のコンクリート製品を堤体の一部に使用する。	②最小化	・堤体上流側法面にブロックマットを実施し、植生空間を創る 工事を実施。	未
				④軽減/消失	・ため池の水を抜く際、徐々に水を排出し、ため池内部に溜水域を確保し、在来の水生動物が避難できるようにする。	④軽減/消失	・地元関係者と調整し、ため池の水を徐々に排出している。	
				④軽減/消失	・希少種(コカモヅル)の個体及び埋土種子を含む表土を、影響の無いところに仮置きし、工事後に戻す。また、事前に種子を採取し、工事後に播く。	④軽減/消失	・コカモヅルの個体保護を行った。	・避難先において、良好に生育している。
				④軽減/消失	・工事により影響のある水田の表土を影響の無いところに仮置きし、工事後に戻す。	④軽減/消失	・水田の表土は、工事に影響のないところへ仮置きし、工事後に戻す予定。	
④軽減/消失	・工事に関わる作業ヤードは必要最小限度とする。 池も干上げの際、オオクチハス(特定外来種)を駆逐する。	④軽減/消失	・工事に関わる作業ヤードは、必要最小限度としている。 ・工事に先立つ干上げの際に、駆逐すべき外来種は発見されず、在来種は同水系の近傍ため池に移動し放流した。					

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
51	H27	農村地域防災減災事業	那賀川・小松島 (小松島市)	②最小化	・排水路の構造を、多孔質(石張等)とし、水生植物・水生動物の生息空間を還元する。(クロモ、クロカワズスゲ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				③修正	・現況水路と改修水路の接合部において、魚類の移動を妨げない緩傾斜構造とするとともに、移動経路として水田魚道を設置する。(メダカ、ドジョウ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				④軽減/消失	・小動物の這い上り水路を設置する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事期間中、希少植物(クロモ、クロカワズスゲ)を影響を受けない場所へ避難させ、工事後、元の場所に戻す。	④軽減/消失	工事期間中、希少植物(クロモ)を影響を受けない場所へ避難させた。	工事の未実施
				⑤代償	・改修水路内において、水生・湿生植物の生育空間を創出する。(クロモ、クロカワズスゲ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				②最小化	・排水路の構造を、多孔質(石張等)とし、水生動物の生息空間を還元する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				③修正	・現況水路と改修水路の接合部において、魚類の移動を妨げない緩傾斜構造とするとともに、移動経路として水田魚道を設置する。(メダカ、ドジョウ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				④軽減/消失	・小動物の這い上り水路を設置する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
52	H27	農村地域防災減災事業	那賀川・今津 (阿南市)	④軽減/消失	・工事期間中、希少植物(コイヌガラシ)を影響を受けない場所へ避難させ、工事後、元の場所に戻す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				⑤代償	・近隣の類似環境の場所に、移植する。(コイヌガラシ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
55	H27	農村地域防災減災事業	三村用水 (三好市)	②最小化	・頭首工での取水量を調節し、生息区間の水量を確保する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				④軽減/消失	・工事期間中、希少植物(イヌハギ)に影響を受けない場所へ避難させる。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				⑤代償	・近隣の類似環境の場所に、移植する。(イヌハギ)	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
56	H28	農業競争力強化基盤整備 事業	大代成野 (鳴門市)	②最小化	・水路側壁部にブロックネット・フロンかご等を敷設し覆土を行い、水生植物の植生回復により、魚介類の生息空間を創出する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				④軽減/消失	・コギンギン・コイズガラシの個体を生育地の土壌と共に工事の影響のないところに移動しておき、工事後戻すこととする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				⑤代償	・オニバスの種子を採取し、水路工事完了後、環境配慮型水路に播種する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
57	H28	農業用河川工作物応急対策事業	神野 (海陽町)	②最小化	・右岸側魚道の破損による漏水を修復し、新たに詰め石により魚道部の水深・流速に変化を設け、遊泳力の弱い魚種でも機能する形式とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				③修正	・堰下流部の護床部を改修し、現況河床にすり付け、堰での河川の段差、分断を解消し、生物的連続性を確保する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流出、重機からの油類の流出・飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・仮設道や作業ヤード設置による用地をできる限り少なくし、在来植生への影響を軽減する。	④軽減/消失	工事ヤードを必要最小限とし、在来植生への影響を軽減した。	

採択 番号	採択 年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等(予定)
58	H29	中山間地域総合整備事業	那賀東部 (那賀町)	①回避	・ナガレホトケトジョウの確認されたため池上流部は変更をしない旨を設計図書に明示する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流失、飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				④軽減/消失	・河床間隙を塞がないように河川内への重機の侵入、進入路の設置を最小限とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・ウメバチソウ、トサンモヅク、ヒトツバハギ、ナカガワノギク、カリガネソウ、シランは工事の際には生育地を改変しない旨を設計図書に明示し、看板やロープなどの設置を行う。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・イトモは工事前に種子、殖芽及び個体を採取し、工事後に本種が生育出来るような環境を整え、植え戻し及び播種を行う。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				③修正	・新設および付け替え水路と現況水路との接合部において、魚類の移動を妨げないよう緩傾斜とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				③修正	・函渠部において段差を設け、夏場の水温上昇の抑制や、非灌漑期の水域を確保する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				④軽減/消失	・事前に、ミズタカモジ、アゼスグの種子を採取し、個体と生育地の土壌と共に工事の影響のないところに移動しておき、工事後植戻し及び播種を行う。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				⑤代償	・フジバカマの個体と種子を採取し、生育環境の類似した場所に移植及び播種を行う。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施

番号	採択年度	事業名	地区名 (所在地)	環境配慮 5原則	主な環境配慮の計画	環境配慮 5原則	主な環境配慮の実績	モニタリング 結果等・(予定)
60	H29	農業競争力強化基盤整備事業	沼田 (美馬市)	②最小化	・床板を設置する箇所等の魚類の隠れ場所となる水路に水のたまり区間を設ける。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				④軽減/消失	・ヒメズワラビ、コギンギン、コイズガラシ、ミズマツハの個体を生育地の土壌と共に工事の影響のないところに移動しておく、工事後戻すこととする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				④軽減/消失	・オオカラスウリ、アレチウリについては確認された地点が他部局の工事範囲であるので他部局との情報共有を行う。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				④軽減/消失	オオカワヂシャが確認された水路を改修する場合には、土壌を持ち出さない。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				⑤代償	・ノニガナの種子を採取し、工事完了後、地区内のさまざまな環境に播種する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				③修正	・新設および付替え水路と現況水路との接合部において、魚類の移動を妨げないよう緩傾斜とする。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				③修正	函渠部において段差を設け、夏場の水温上昇の抑制や、非灌漑期の水域を確保する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				⑤代償	・生育場所の畦畔などの土には、埋土種子があるため、可能な限り工事に流用し、生育基盤を復元する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
61	H29	農村地域防災減災事業	藍住3期 (藍住町)	③修正	・工事によってダメージを受けた路線周辺の雑草や、新設農道の法面を、在来種により緑化を行い自然雑草の回復を図る。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				④軽減/消失	・「イヌハギ」の個体を生育地の土壌とともに工事の影響外へ移動し、工事後に戻す。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
				⑤代償	・「イヌハギ」の個体と種子を採取し、工事の影響のない類似の環境へ移植及び播種する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	
62	H29	農道整備事業	伊沢中央 2期 (阿波市)	③修正	・工事によってダメージを受けた路線周辺の雑草や、新設農道の法面を、在来種により緑化を行い自然雑草の回復を図る。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	工事の未実施
				④軽減/消失	・工事の際、濁水の流下、重機からの油流出、飛散に注意する。	未	配慮箇所周辺の工事未実施	